

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	株式会社さくらさくみらい
施設名	さくらさくみらい 田園調布
施設所在地	大田区田園調布1-27-5

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光と色の遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

年度初めの4月、反射により保育室の壁に写ったスパンコールのカラフルの色の気付きから、近所の公園の池を眺めているときにも反射の気付きがあったため、今年のテーマを「色」と「光」にした。色は子どもたちが日常生活で触れる身近なものであり、また日頃から光や影に興味を持っている姿が見られることから、様々な色の濃淡や変色する現象、透過性による色の変化について、子どもたちの興味関心をさらに深めたいと思い設定した。

2. 活動スケジュール

8・9月…色水作り、水遊びを通して片栗粉や氷に触れる

10・11・12月…大きくなったね会（発表会）を通して今までの気づきを子どもたちなりの表現で発表する（保護者参加）・戸外・室内活動でキラキラ素材や透ける素材で遊ぶ

1・2・3月…かき氷機・ランタン等を使って実験遊びをする（オーロラ作り・映画作り）

※2月保護者会（5歳児）にて写真と動画を使用し、取り組みを紹介

※3月卒園式（5歳児）後にその後の活動を写真を使い紹介

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【準備した素材や道具】

デジカメ・プロジェクター・書画カメラ・かき氷機・ランタン・カラーセロファン
スタンドカラーシート・ラビー・ホログラムテープ・ラップ・アルミホイル・油性ペン

【環境設定】

色水遊び…自由に色水で遊べるようにした。セロファンやキラキラテープを色水に浮かべたり、氷に入れて凍らせたりする。

実験遊び…部屋を暗くし、ランタンや布、ダンボールハウスを使って自由に試す空間づくりをした。かき氷機を触り、氷を削って自由に実験できるようにした。

書画カメラ…実験遊びで気付いたことや考えを書画カメラの前で話し、撮影し、自分の考え、発見が認められるようにした。

プロジェクターを使って、職員や保護者の方に今までやってきたことをわかりやすく共有できるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

子どもたちの興味関心に基づいて連動的に活動が楽しめるようにした。布やレースを部屋にかけ、部屋に入ってくる日光の違いに気づき、様々なものを日光やライトに当てていた。

色水の作り方も、ペーパータオルに水性ペンで色をつけ、水にいれると色がつくようになり、絵の具や食紅を使ったりと様々な方法で取り組めるようにした。色水をペットボトルに入れ、光に当てたことにより、色の濃淡によって光方が違うことに気づき、光と色の関係性に興味を持つ。

キラキラテープを棒に貼り、戸外でも遊べるようにして自然の光を滑り台に反射させ、ウオータースライダーと見立てて遊んでいた。光に当てたらもっと綺麗かもしれない、暗いところでしてみたい、とのことで、実験遊びという活動を定期的に行った。

ダンボールハウスにいつも使っている布をかけ、暗闇を作り中でランタンや色水ボトルを使って様々なことを試した。

かき氷機を約束事を守って安全に使い、光を照らして「北極みたい」と見立て遊びにつながり、色水のボトルに油性ペンで色をつけ天井に映すことで「オーロラみたい!」と、オーロラ作りや映画作りに発展した。オーロラや映画の投影では、どうやったらキレイな色を映せるか、クリアファイルを使ってどう絵を壁に映せるかと試行錯誤していた。

結果、色水のボトルに、油性ペンで色をつけてランタンを当てると光に色がついて綺麗だと発見した。

また、ランタンを使って身の回りのものや玩具のどれが光を通すのか、なんで光が通りやすいのか自分たちなりの疑問を友だちと話し合っって答えを出していた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

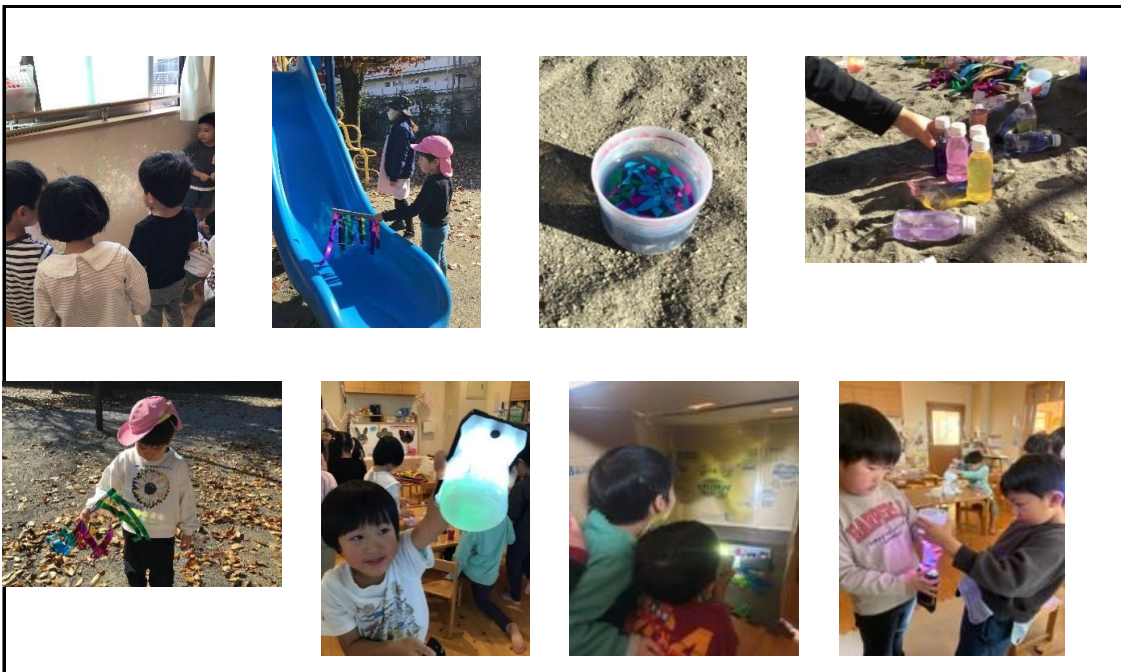
(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

キラキラテープやセロファンを自分で様々な大きさに切り、「なんで浮かぶのと沈むのがあるんだろう」と疑問を持ち、友だちと会話を通して「小さく切ると浮く、大きく切ると沈む」と浮き沈みに関心を持ち自分なりの答えを出していた。

キラキラテープを付けた棒を戸外で太陽に照らし、反射を楽しみ、すべり台に光を反射させ、「キラキラウオータースライダーだよ!」と見立て遊びに発展した。その中で戸外で使うキラキラの棒の部分は柔らかい素材だと友だちにあたっても痛くないということを知った。

色水では、水性ペンを使って色水を作り出すのを一番楽しんでいた。混色がしやすい方法だったため、たくさん色を混ぜ、黒に近い濃い色を作り出していた。黒に近い色でも光に当てると混ぜた色がわかるということで、濃淡についても楽しみ「このボトルは何色と何色が混ざっているのでしょうか!」と問題を出し合っていた。

実験遊びでは「上手く壁に映らないな」と、オーロラや映画投影に難しさを感じていたが、「クリアファイルにしっかり色をつけて、ランタンを近づけると上手く映るよ」「ランタンを遠くしたり、近くしたりすると映る大きさが変わる」と楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちの自分で試行錯誤する力、創意工夫する中で発見や気づき生まれ、疑問につながり、また自分たちなりに試行錯誤して答えを出していく姿に「生きる力」を感じた。子どもたちが自分たちで主体的に楽しむ活動は自然と連動的になり、集中して遊んでいた。大人にとっては当たり前の事象も子どもたちにとっては大発見で、探究心や知的好奇心が刺激されていたと感じた。

身近にあるもの（おもちゃではない素材や文具、道具、建具、遊具を含めて）も子どもたちにとっては実験対象で、遊びに広がっていてとても興味深かった。

散歩活動から持ち帰った季節の自然の産物との出会いを通して、自由に実験や色水ができる環境を作ったことで、子どもたちのやりたいタイミングで活動に移ることができ、繰り返し満足いくまで楽しめるのが良かった。保育における人的および物的な環境設定がいかに大切なことであるか、この1年を通して改めて実感した。これからも重要な位置づけと捉え、五感を刺激し、子どものわくわくする心、ドキドキする心、挑戦する心が育まれるよう子どもと共に、発見や喜び、もどかしい気持ちに共感しい子どもと一緒に対話の中で考え続けていこうと思う。